

## 翻訳の要点 挨拶表現をめぐって

Some Remarks on Courtesy Expressions :  
a comparative perspective (Japanese + French)

Jean Bazantay

ジャン・バザンテ

いかなる言語においても挨拶表現は重要であり、フランス語、日本語についても同様である。社会生活の中ではあらゆる機会に挨拶が必要であり、それぞれの状況に応じた言い方が細かくできあがっている。実際、その場にふさわしい挨拶がなければ、コミュニケーションがスムーズに進まず、人間関係は成立しない。

贈り物のやり取りの際など、日常、お礼を言わなければならない場面は多いし、朝夕の挨拶も欠かせない。しかし、「Bonjour」を機械的に「今日は」または「おはようございます」と訳していいのだろうか。プレゼントをもらったフランス人の「Il ne fallait pas」を、「いらなかった」と直訳したらばとんでもないことになるのではないか。

逆に日本語の「行って参ります」、「ただいま」などをどのようにフランス語に訳したらいいのだろうか。こうした小さな困難は無数にあるのだが、以下ではアニメのサザエさんを教材に使った演習の授業での実際の苦労を元にして、コツを具体的に述べていきたい<sup>(1)</sup>。

### お礼表現

お礼表現の基本は「ありがとう」であり、フランス語では「Merci」という。しかし、感謝の意を表す時にフランス人は「Merci」とだけ言うことはまずない、

(1) 参考辞典：日本国語大辞典(小学館,1978), 広辞苑(第四版,1995), Shôgakukan Robert Dictionnaire Français-Japonais (Shôgakukan,1988), 現代フランス語辞典(白水社,1993), スタンダード和佛辞典(大修館書店,1971), Le Petit Robert (Dictionnaire Robert, 1976)

そこに様々な言葉や文を付け加える。極端に言えば、ものをもらって「Merci」だけを口にしたのでは軽すぎて失礼に当たる。そこでフランス人の一般的なお礼の言い方を、五つに分けて整理してみよう。

## 相手の気前のよさを強調した言い方

### 1/ 「Trop」を使った言い方

フランス人はお礼を言う際に「Trop」（あまりに、過度に、・・・すぎる）という言葉をよく使う。プレゼントをもらった時に、その品物に対して、次のような言い方をする。

1-1 C'est trop beau. (これは高価すぎる。)<sup>(2)</sup>

1-2 C'est trop. (過分だ。)

### 表現の背景にある心情

「Trop」を使うことで相手に遠慮の気持ちを伝える。言い換えれば「このような高価なものはとてもいただけない」という意味あいとなる。また、一方で相手の気前のよさを強調しながら、自分がそれだけのものをもらうには値しないという謙譲のニュアンスも入っている。

相手の親切さに対して、次のような言い方もする。

1-3 C'est trop gentil. (それでは親切すぎる)

1-4 Vous êtes trop aimable. (あなたは親切すぎる)

1-5 Vous êtes trop gentil. (あなたは親切すぎる)

1-3 ~1-5 の言い方はどちらかと言えば、プレゼントを受けとった後の言い方であるため、遠慮のニュアンスは希薄で、むしろ形式的な表現だと言える。

(2) ( ) は直訳

### 「Trop」の訳し方の要点

→ 原則として「。。すぎる」という翻訳は避けること。

→ 「本当に」あるいは「そんなに。。」を使うこと。

1-1 C'est trop beau.                   そんなに素晴らしいものを。。

1-2 C'est trop.                       まあ、そんなに。。

1-3 C'est trop gentil.               本当にご親切に

1-4 Vous êtes trop aimable.       本当にご親切に

1-5 Vous êtes trop gentil.       本当にご親切に

### 2/ 「Fou」を使った言い方

フランス語の「fou」と日本語の気違いとは、意味こそ同じではあるものの、「Fou」が軽い愛嬌のニュアンスを持つのに対し、「気違い」は直接的な強さを持っている。この違いを、おさえておかなければならない。

2-1 T' es fou !                       (あんた、気違いなの?)

2-2 Vous êtes fou !               (あなたは気違いなんですか。)

2-3 Vous avez fait des  
folies...                       (気違い沙汰をしましたね。)

2-4 Vous n'êtes pas raisonnable. (あなたは正気ではありません。)

### 表現の背景にある心情

2-1 は仲の良い友達同士だけで使われる表現だが、それ以下は意外にもかなり丁寧な言い方で特別親しくない人に対しても使う。それは本来はプレゼントがあまりにも立派で、これほど金を惜しまない行動は正気の沙汰ではないという意味あいである。しかし、これらも形式的な挨拶となっており、高価なものをもらった時だけに言う表現ではない。

### 「Fou」の訳し方の要点

→原則として日本語に翻訳不可能なので、上手にニュアンスを伝えるようにすべきである。

- |     |                              |                      |
|-----|------------------------------|----------------------|
| 2-1 | T' es fou !                  | おかしいんじゃない。           |
| 2-2 | Vous êtes fou !              | どうかなさったんですか。         |
| 2-3 | Vous avez fait des folies... | こんなことなされるなんて。。       |
| 2-4 | Vous n'êtes pas raisonnable. | こんなにまでしていただかなくても。。。。 |

### 遠慮の言い方

フランス人は日本人と同様でかなり遠慮深い国民で、言葉にもそれが現れている。従って、直訳をして言葉通りに受け取ってはならない。例えば次の言い方はその例である。

- |     |                        |            |
|-----|------------------------|------------|
| 3-1 | Il ne faut pas.        | (その必要はない)  |
| 3-2 | Ce n'est pas la peine. | (それには及ばない) |
| 3-3 | Je ne peux accepter.   | (いただけません)  |

### 表現の背景にある心情

以上の例文はプレゼントを差し出された際、または何らかのサービスの申し出を受けた際に言う、遠慮のニュアンスを含んだ表現である。社会生活上の常識に照らし合わせて、相手の好意が大きすぎるという判断で、遠慮する言い方である。しかし、これも形式的挨拶になってしまっている。

次のような同種の表現もある。

3-4	Il ne fallait pas.	(その必要はなかった。)
3-5	Vous n'auriez pas dû	(…すべきではなかった。)
3-6	Il fallait venir simplement.	(手ぶらでくるべきだった。)
3-7	Vous auriez dû venir simplement.	(手ぶらでくるべきだった。)

### 表現の背景にある心情

過去形になると、意味が変わる。つまり、相手のプレゼント（好意）を受け取ってから言う言葉なのだ。遠慮ではなく、完全にお礼の言葉だと考えて良い。相手の気配りをやさしく咎める言い方で、親しげで暖かみのある表現である。同時に相手の気配りを強調しながら、その気前のよさを引き立てている。

### 遠慮の言い方：訳し方の要点

- 原則として「いない」は絶対に言わないこと。
- 文末に「のに」をつけることによって咎めのニュアンスを出す。

3-1	Il ne faut pas.	お気遣いなく。/ご心配なく。/ いけませんよ (そんなことををなさっては)。/こまりますよ。
3-2	Ce n'est pas la peine.	どうぞ、お構いなく。 お気遣いなく。
3-3	Je ne peux accepter.	いただけませんわ。 そんなものをいただくのは恐縮です。いただけませんわ。 そんなものもらっちゃわるい。 そんなにしていただいて。。。
3-4	Il ne fallait pas.	そんなにしてくださらなくてもよかったのに。
3-5	Vous n'auriez pas dû !	そんなにしてくださらなくてもよかったのに。
3-6	Il fallait venir simplement.	手ぶらでくれば、よかったのに。
3-7	Vous auriez dû venir simplement.	手ぶらでくれば、よかったのに。

## 困惑した心情を表す言い方

- 4-1 Ça me gêne. (気まずく思う)  
 4-2 Je suis confus. (恥ずかしい)

### 表現の背景にある心情

自分の気持ちを表しながら、相手に対して感謝を表現する。フランス人は思いがけない好意に対して恥じらいに近い気持ちを感じるのだ。ところが、日本人には好意に対する恥じらいという気持ちはないので実に訳しにくい言葉である。

#### 訳し方の要点

- 原則として、「恥ずかしい」などの訳は避けること。
- 「すみません」、「申し訳ない」、「恐縮です」などの軽いお詫びの表現を使うのがコツである。

- 4-1 Ça me gêne. 申し訳ありません。/すみません。/  
 どうしましょう。  
 4-2 Je suis confus. 恐縮です。

## 感謝の意を表す言い方

「Merci」を使った言葉が中心となる。多くの場合に、「Merci」だけを言うのではなく、それ以外の言葉を付け加えることで、馴染んだ感謝の気持ちになる。特に「Merci」の後に「Monsieur」「Madame」「Papa」「Maman」あるいは相手の名前を付けるのは常識である。例えば、次のような表現がある。

- 5-1 Merci.  
 5-2 Merci X.  
 5-3 Merci bien.  
 5-4 Merci beaucoup.  
 5-5 Merci pour tout. (全部に対して、ありがとう。)

- 5-6 Merci mille fois. (千回、ありがとう。)  
 5-7 Merci infiniment. (限りなく、ありがとう)  
 5-8 Je ne sais comment vous remercier. (どのように、感謝したらいいかわからない)

### 訳し方の要点

→簡単な言葉でありながら、それぞれの言葉のニュアンスは伝えにくい。  
 以下の訳も、そのつもり読んでもらいたい。

- |     |                                    |                        |
|-----|------------------------------------|------------------------|
| 5-1 | Merci.                             | ありがとう。/ どうも。           |
| 5-2 | Merci X.                           | ありがとう。/ ありがとうございます。    |
| 5-3 | Merci bien.                        | ありがとうございます。            |
| 5-4 | Merci beaucoup.                    | どうも、ありがとうございます。        |
| 5-5 | Merci pour tout.                   | 色々、ありがとうございました。        |
| 5-6 | Merci mille fois.                  | 本当にありがとうございます。         |
| 5-7 | Merci infiniment.                  | 本当にありがとうございました。        |
| 5-8 | Je ne sais comment vous remercier. | なんとお礼を申し上げたらいいかわかりません。 |

### 「今日は」と Bonjour

前述のように、お礼表現についてはフランス語の方が心情に応じて表現が豊かである。それに反し、「おはようございます」に代表される、いわゆる挨拶語については日本語の方がはるかに複雑である。

一例を挙げればいわば国際語にまでなっている「今日は」、「さよなら」は日常生活の中でほとんど耳にしない。この事実については考えてみる必要がある。

以下では、日本語をフランス語に訳す場合のコツを述べていきたい。

### 人にあった時の挨拶語

1-1 から 1-4 までは時間によって言い方が変わる挨拶である。

1-1	おはよう	Bonjour !/ Salut !
1-2	おはようございます	Bonjour !
1-3	今日は	Bonjour !
1-4	今晚は	Bonsoir !

これで分かるようにフランス語では「おはようございます」と「今日は」は同じである。但し、友達、同僚間での「おはよう」はSalutと訳す。

1-5 から 1-6 は慣用語的挨拶である。

1-5	しばらく (まあ、しばらくでした)	Bonjour !
1-6	お久しぶり	Bonjour ! Cela fait longtemps.

1-5、1-6 は 本来は、一別以来の時間的長さを表している言い方だが、その意味は薄れてしまい、「今日は」に近い意味となった。フランス語でも、

Il y a longtemps qu'on ne s'est (pas) vus.

Ça (cela) fait longtemps.

Ça fait un bail ! (くだけた表現)

などの言い方があるが、いずれも文字通り久しぶりにあった時に使う。従ってこれらを日本語の訳に濫用してはならない。



特定の状況、または場所と結びついた挨拶である。

1-7	いらっしゃいませ。	Bonjour !/ Bonjour, soyez le bienvenu !
1-8	いらっしゃい。	Bonjour !
1-9	おじゃまします。	Bonjour !
1-10	お待ちどうさまでした。	Bonjour !

1-7 「いらっしゃいませ」は自分の家に人を迎えた時、店主、店員が客を迎えた時にいう。フランス語では来客を迎えて

Soyez le bienvenu ! /Bienvenu !

などという。但し、これらのフレーズはBonjour Xの後に続けられる。というわけで日本語での、「いらっしゃいませは」むしろ「Bonjour」に当たる。特に店での「いらっしゃいませ」は「Soyez le bienvenu」のニュアンスは全くない。

「おじゃまします」は1-7に対応する言い方、人の家を訪れた際の挨拶である。同様に1-10「お待ちどうさまでした」は挨拶として出前の配達人などにつかわれている。1-9,1-10ともに絶対に直訳は出来ない、単なる「Bonjour」である。

### その他

1-11	よう。	Salut !
1-12	...Xです。	Bonjour ! C'est X.
1-13	おねがいします。	S'il vous plaît !/ Excusez-moi !
1-14	すみません。	S'il vous plaît !/ Excusez-moi !

1-11は男性が使う挨拶だが、フランス語では「Salut」である。1-12に関しては、フランス語でも、例えば「C'est Jean」というが、必ず、その前に「Bonjour」をいう。従って、「。。です」をフランス語に訳す場合は「Bonjour, C'est Jean」といわなければならない。

1-13、1-14は主に店に入った客の呼びかけである。フランス語では「S'il vous plait」と「Excusez-moi」に当たる。

## 人と別れる時

2-1	さよなら。	Au revoir ! / Adieu !
2-2	ごきげんよう。	Au revoir !
2-3	ごめんください。	Au revoir !
2-4	おじゃましました。	Au revoir !
2-5	おさわがせしました。	Au revoir !
2-6	失礼します。	Au revoir ! / je vous laisse. / je vous quitte.
2-7	それでは (じゃあね)。	Au revoir ! (Salut ! / Bye ! / Ciao !)
2-8	のちほど (後で)	A tout de suite ! / A tout à l'heure ! / A plus tard
2-9	またね。	A bientôt ! / Au revoir. A Bientôt !
2-10	またいずれ。	A un de ces jours ! / A une autre fois ! / A la prochaine !
2-11	おさきに。	Au revoir ! / A demain !
2-12	ありがとうございました。	Au revoir !
2-13	お大事に。	Au revoir !
2-14	お気をつけて	Au revoir ! / Bon retour !

2-2 は人にあった時にも使われるが、現在ではむしろ別れる際の挨拶である。一方、2-3 は訪いの挨拶にも別れにも使われる挨拶である。

2-4、2-5 は人の家から立ち去る際に言い、相手を煩わせたことへ謝罪の意味が感じられるが、これも 「Au revoir!」。フランス語では「on vous a causé du dérangement」などで同様の気持ちを表現しうるが、これだけでは挨拶にならない。必ず「Au revoir!」が必要である。

2-6 はどちらかと言えば、単に「Au revoir!」である。しかし、「Permettez-moi de me retirer」、「Permettez-moi de vous laisser」などの意味あいも含まれているので、場合によって、このような言い方で訳しても良い。

2-7は本来その後が続く「さよなら」、「失礼します」が省略された形である。語源的にはさよなら（左様ならば）、失礼しますと訳として「au revoir!」以外になにもない。フランス語の「Sur ce,」「là-dessus,」とはよく似ているものの、フランス語の場合、それだけで挨拶とはなれない（「Sur ce, je vous laisse./ Sur ce, je m'en vais」などが普通）。但し「じゃあね」は主として若者に使われているので、「Salut!」「Bye!」「Ciao!」のニュアンスに近い。

2-8、2-9、2-10は再会を前提とする言い方であり、それまでにどのぐらいの時間が経つかによって使い方は異なる。しばらくしての再会だとすれば、「Au revoir!」は不適切で、単に「A tout à l'heure!」または「A plus tard!」となる。逆に、一日以上の場合は「Au revoir, A Bientôt!」との言い方になる。

2-11は「どうも」のように、本来それだけでは何の意味もなく、「お先に失礼します」などの省略した形である。従って、省略した部分を想像して、訳すべきだが、ほとんどの場合「Au revoir!」に当たる。仕事などの場では頻繁に使われている挨拶で、それに対応する「おつかれさまでした」で返す。もともとは部下にむかって目上の人のみが言う言葉だったが、今日では上下の要素はなくなったようだ。このやり取り、下のように、自由に訳してよい。

- Au revoir !

- Bonne soirée, A demain !

2-12、2-13、2-14は特別な状況にしか使えない別れの挨拶である。例えば、店主が客を「いらっしゃいませ」と迎えたのに対し、「ありがとうございます」で見送るのが普通である。フランス語ではいずれも「Bonjour!」「Au revoir!」と訳す以外に選択はないが、逆に、この場合のやり取りを日本語には「今日は」「さようなら」で訳すと不自然になるので、訳の際注意が必要である。同じく、2-13は医者、看護婦が患者に言う言葉である。ここでフランス語の「Soignez-vous bien!」、「Faites bien attention à vous!」などが考えられるが、単なる「Au revoir」が一番自然だろう。

## 「ってきます」「いってらっしゃい」と「ただ今」「おかえり」

アニメのサザエさんをはじめ、日常生活では頻繁に交わされる挨拶だが、フランス語にはそれに当たる決まり文句はないし、直訳も絶対に使えないので、工夫が必要である。以下では、学生と一緒に考えたいいくつかの訳を紹介する。

### ① 朝。会社に向かう時

マスオ「ってきます」

A ce soir !

サザエ「いってらっしゃい」

Bonne Journée !

夜。帰宅の際。

ナミヘイ「ただ今」

C'est moi. Bonsoir tout le monde !

ワカメ「お帰り」

Bonsoir Papa !

### ② 朝。学校に行く時

カツオ「ってきます」

J'y vais !

サザエ「いってらっしゃい」

A ce soir. Travaille bien !

夕方。学校の帰り

カツオ「ただ今」

C'est moi !

サザエ「お帰り」

Tu as passé une bonne journée ?

### ③ 夕方、お使いに行く時

ワカメ「ってきます」

A tout de suite !

サザエ「いってらっしゃい」

Merci. Fais bien attention.

お使いの帰り

ワカメ「ただ今」

Ça y est.

サザエ「お帰り」

Merci! Tu es gentille.

## 結び

以上、お礼及び挨拶表現の訳にあたって、いくつかの問題点を指摘した上で、授業中に考えた訳を提案した。しかし、この挨拶の訳は大きな課題で、この数

ページではわずかな一面にしかふれられなかった。リストアップした表現には漏れもあれば、一つの表現には、また当然、他の訳も考えられるだろうが、翻訳者にとって、生きた訳のヒントとなればと思う。

前に述べたように、フランス語ではお礼の表現が豊かなのに対し、挨拶に関しては、むしろ日本語の方がバラエティーに富んでいる。その辺を少々整理しておきたい。

まず、日本語に関しては、お礼表現にも、挨拶表現にも、言語的には域外の謝罪表現を使用することが分かる。また、お礼表現が、挨拶として使われたりすることもしばしばある。つまり、下記の表の通り、この三つのジャンルの表現の間にははっきりとした使い分けもなく、むしろ交換の可能性がある。

表1：日本語の場合

メッセージ/ 表現集	感謝	挨拶	謝罪
感謝表現	○	○	○
挨拶表現	×	○	×
謝罪表現	○	○	○

この現象は、日本語の挨拶表現とお礼表現の多様性の一因であろうが、同時に一定の状況において他のジャンルの言葉に訴えられることがひとつの枠の中の表現の多数化を妨げた。

フランス語の場合を同様の表でまとめると、下記のようになる。

表2：フランス語の場合

メッセージ/ 表現集	感謝	挨拶	謝罪
感謝表現	○	×	×
挨拶表現	×	○	×
謝罪表現	×	×	○
その他	軽い咎め 困惑表現		

一目瞭然だが、フランス語では、感謝・挨拶・謝罪の表現は交換不可能であり、それぞれを使い分ける。

また遠慮の気持ちを表せるフランス語ならではの軽い咎めや困惑した気持ちの表現にも注目したい。なお、挨拶表現に関しては、日本語に比べ、フランス語は少し乏しいようだが、実は日本人が挨拶として単刀直入に表すお礼や謝罪の意を、フランス語の場合は、挨拶を交わしてから言うことが多い。例えば、「この間はどうも（ご馳走様でした）」は「Bonjour! Merci encore pour l'excellent repas de l'autre jour.」といった具合になる。つまり、日本語では挨拶表現が省略されるのだが、このような省略はフランス語では不可能である。

従って、自然な訳を出すために、上記の二つの表を対立させる必要がある。

表3：日本語対フランス語

メッセージ/ 表現集	感謝	挨拶	謝罪
感謝表現	○○	⊖×	⊖×
挨拶表現	××	○○	××
謝罪表現	⊖×	⊖×	○○

日本語の表現をフランス語に訳す際に、フランス語では別のジャンルの表現を使えないため、全く異なったジャンルの表現に置き換える必要があることがある。それは上記の表で「○×」に当たる四つのケースである。例えば、フランス語で謝罪表現ではお礼の意が通じないため、この場合お礼表現で訳す他に方法はない。しかし、フランス語を日本語に訳す時には、選択の余地が大きい。和仏訳に際して不可能な四つの可能性があるからだ。例えば、挨拶表現を感謝または謝罪表現で訳した方がよい場合があるのだ。

挨拶というのはいわゆる決まり文句の典型だと言っても過言ではない。一つの表現全体に特定の意味があって、逆に、それを構成する一つ一つの言葉にはその本来の意味あいはいはうすくなってきた。従って、挨拶表現の翻訳にあたっては、一つの言葉に取られないのは一番肝心だ。自然な訳はむしろ、その表現全体が持っている意味あい、つまり話し手の心情の正確な理解にかかっている。そのため、ここで「表現の背景にある心情」の分析に力を入れたのである。なお、話のレベル、話し手と聞き手との間の関係にも特別な気くばりをいれる必要がある。最後に、言葉というのは挨拶の一部にすぎず、それに伴うノンバーバル・コミュニケーション（例えば、握手、キス、お辞儀などの仕草）に焦点を合わせるとより生きた訳が出せるが、これは、この論文の範囲をはるかに越えている問題である。